令和 7 年度森林吸収源インベントリ情報整備事業北海道ブロック現地講習会報告

開催日：2025 年 5 月 28 日（水）
時間：9 時 00 分～16 時 00 分
場所：ID011390（厚真町）
受講者：(株) セ・プラン、構研エンジニアリング、リック、環境テクニカルサービス (6 名)
講師名：志知幸治（責任者）、今村直広、梅村光俊（森林総研北海道支所）、橋本 徹（森林総研立地環境研究領域）
場所の概要：コナラ、ミズナラ等が優占する広葉樹林で、下層植生にフッキソウなど丈の低い草本類がみられる見通しの良い林分であった。支笏湖の噴火に伴う火山灰が堆積した土壌で、掘削は比較的おこないやすかったが、砂質で崩れやすく、断面整形や土壌試料採取時に注意を要する場所であった。
講習会概要：受講者と合流後、受講者の先導で調査位置の中心杭まで到達した。2 班に分かれ、南北と東西のライン引き、根株、倒木、立枯木の調査を実施した（写真 1)。適宜、修正点、改善点の指摘をした。その後、3 班に分かれ、北、南、東地点で土壌断面調査を実施し、先に終了した班が西地点を担当した。作業途中で適宜講師による指摘を行った。北地点では、経験のある受講者が主体となって未経験の受講者に指導を行った。最後に化学分析用土壌試料の混合とサンプルの確認を行った。講習会の終わりに、講師による講評を行った。
指摘事項：
・1.3m 以下で分岐し株立ちしている立枯木は、一部の幹が生きていたり、萌芽していても、枯死している部分が大きいので測定すること（今回は胸高直径 5 cm 未満だったため対象外）（写真 2）
・粗掘りの際、ブルーシートを断面右上に設置しようとしていた。堆積有機物採取枠内に土が混入する恐れや、シートが断面写真に映りこむ可能性があるので、断面の左右どちらかに設置すること
・断面写真を正面から撮れるように、粗掘りの際に手前側もある程度掘ること（写真 3）
・断面整形時に、カッパの袖の閉めが緩いと、落葉層に触れてしまい落葉層が崩れてしまうため注意すること
・0～5 cm の化学分析用土壌試料採取時は、根などを引っ張って土壌が崩れる恐れがあるため、先に剪定ばさみでブロックに沿って切ってからコテを入れること（写真 4）
・円筒を差し込む際に、枠周辺の円筒内の土壌も一緒に手で押さえていた。圧密されて円筒内の土壌が過大評価になるので枠のみ押さえること
・円筒試料の断面を平らにするときに、中央部分が膨らんで過大に採取することが多いので、丁寧に削ること（写真 5）
全体講評：受講者は、円周杭を探すときにコンパスグラスを使って方向の指示をするなど、スムーズな調査・工夫を心がけ、経験者による未経験者への指導も丁寧に行っていた。本講習会により、マニュアルに従った正しい調査方法を改めて共有することができた。

写真 1　枯死木調査

写真 2 株立ちした立枯木

写真 3　粗掘りにおける手前側の掘削

写真 4　化学分析用土壌試料の採取

写真 5 円筒試料の下面の整形